

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ スタディサプリやドリルパーク等を活用し基本的な漢字や表現に関する事項、基本的な計算問題の反復練習を行う。その成果を見るために、授業の中で確認テストを行う。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ 授業の中で生徒が課題に対して情報を集めたり、グループで共有したり、考えを交換したりする活動を通して、自分の考えを理由とともに説明する場面を設定し、教師は学びのプロセスを適切に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 全ての授業において、適切な課題を設定し、個々の生徒がそれぞれの目標を設定し、それに向けて解決の見通しをもち自分で解決する場を設定する。

⑤ 年度末評価 (2月) 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能		
思考・判断・表現	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
主体的に学習に取り組む態度		

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校結果と比較し、国語-5.6pt、数学-6.6ptであった。国語の言葉の特徴や使い方に関する事項はR4年度の自校の結果と比較すると-16.5ptとなっており、言葉の特徴や使い方を重点的に指導する必要がある。また、数学の「四分位範囲」の正答率が全国平均と比較すると-33.7ptだった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+4.3pt、数学-1.2ptであった。しかし、さいたま市平均と比較すると、国語の「書くこと」が-17.5pt、数学の「データ活用」が-22.5pt、英語の「思考・判断・表現」が-14.1ptと課題がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は79.2%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ 宿題としてのスタディサプリを継続し、漢字や計算、英単語の小テストを用いてスモールステップで定着度を確認し、間違った問題を反復練習させる。また、語彙力を高めるために4字熟語やことわざを美しい字で書く「言葉の葉」を継続する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 国語では、文章を書く機会を多く設定し、「型」を示すことで相手に伝わる文章を書けるように指導していきたい。数学では仮説を交換する時間を設定し複数の解き方に目を向けさせたい。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 理解度に応じた個別課題を示し、達成感を感じさせる。また、調べ学習でパワーポイントの共同編集を使うことで、楽しみながら学習を進められるようにする。